平成 30 年度　船橋市所蔵作品展「船橋の洋画家たち」関連イベント

美術フォーラム「美術鑑賞がもたらす力とは」

いま、教育現場では、「美術作品の鑑賞」に関心が高まっています。

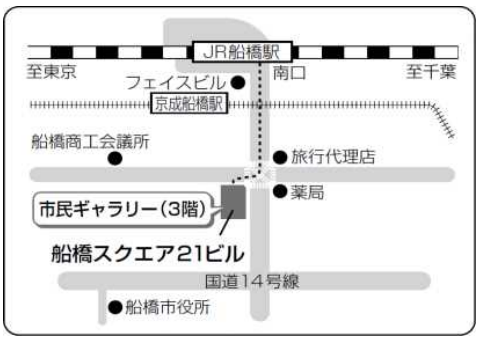
1990 年代後半から、静かに作品を見るのではなく、作品を前に、周りの人と対話をしながら作品の意味を読み解いていく「対話型鑑賞」が各地の美術館で実践されてきました。また、美術館と学校の連携が進み、子供たちが美術品に出会う機会が増えてきました。

2020 年の新・学習指導要領では、その教育目標を、「知識の理解の質を高め資質・能力を育む主体的・対話的で深い学び」としています。一方、美術館で本物の美術作品を鑑賞することは、子供たちの「基礎力」「思考力」「実践力」の 21 世紀型学力を育むと言われています。

今回の美術フォーラムでは、学習指導要領の策定にかかわった**奥村高明氏**と、佐倉市立美術館での「対話による美術鑑賞プロジェクト　ミテ・ハナソウ」の企画に携わった**永山智子氏**を迎え、美術鑑賞教育の可能性を議論します。

© AI MIYOSHI

基調講演：奥村高明
（日本体育大学児童スポーツ教育学部教授）
事例報告：永山智子（佐倉市立美術館学芸員）
山本雅美（船橋市教育委員会学芸員）
日時：12 月 15 日（土）14:00~16:30
会場：船橋市民ギャラリー
船橋市本町 2-1-1　スクエア 21 ビル 3 階
☎047（420）2111
対象：どなたでも
参加費：無料
定員：30 名（先着順）
申し込み不要。当日会場にお集まりください。



●ＪＲ船橋駅から徒歩約７分　●京成船橋駅から徒歩約５分

講師プロフィール

おくむらたかあき
奥村高明
日本体育大学
児童スポーツ教育学部教授

博士（芸術学）。宮崎県内の小・中学校教諭、宮崎大学教育学部附属小学校文部教官教諭、宮崎県立美術館学芸員、国立教育政策研究所教育課程調査官（併）文部科学省教科調査官、聖徳大学教授、児童学部長などを経て、現職。平成 10 年、平成 20 年、平成 29 年の小学校学習指導要領図画工作科及び解説書、特定の課題に関する調査（図画工作）、教育課程実施状況調査等に委員や担当官として関わる。専門は、図画工作教育、鑑賞教育、美術館との連携など。アートカードや鑑賞アクティビティツールなどの教材、著書や雑誌論説、学会論文等多数。『エグゼクティブは美術館に集う――「脳力」を覚醒する美術鑑賞』光村図書出版、2015 年『マナビズム　「知識」は変化し、「学力」は進化する』東洋館出版社、ほか著書多数。

ながやまのりこ
永山智子
佐倉市立美術館学芸員

佐倉市立美術館の開館以来、教育普及事業を担当。毎年夏に行われていた「体感する美術」の仕掛け人。アーティストとともにワークショップを多数手掛け、商店街を舞台にした展覧会などもキュレーションする。

問い合わせ先：船橋市教育委員会　文化課
☎０４７（４３６）２８９４　　facebook：@funabashi.bunka